

1 認定こども園島田中央幼稚園

教育・保育目標 「元気に遊ぶ子」

重点目標 「じぶんでみつけかんがえやってみよう」

具体的な姿 「○主体的に動く子 ○たくましい子 ○人、もの、コトとつながる子
○気持ちの良い生活をする子 ○自分が大好きな子」

2 自己評価と保護者アンケートの結果

評価基準 A・よく達成している B・達成している C・どちらともいえない
D・あまり達成していない E・まったく達成していない

A 評価及び B 評価を合わせた割合

番号	項目	質問内容・力を入れた点	総合評価	保護者評価
1	教育保育目標 重点目標	教育保育目標「元気にあそぶ子」、重点目標「じぶんからみつけ考えやってみよう」が、達成されている。	95.4	97.2
2	主体性のある 子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分から見つけ、考え、やってみようとする姿を褒め、自信に繋げている。 ・人やもの等自分の周りへの好奇心や興味関心をもって、やりたいことに取り組めるような環境づくりをしている。 ・子どもの声に耳を傾け、子どもの思いを受け止め、子どもと一緒に遊びを楽しむようにしている。 	98.5	97.9
3	たくましい子の 育成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頑張り（力いっぱい・諦めない・挑戦・試行錯誤・工夫する等）を認め、自信に繋げている。 ・失敗は成長のチャンスととらえ、うまくいなくても我慢したり諦めずに取り組んだりするように支えている（レジリエンス・自己コントロール等の育成）。 ・安心して色々なことに挑戦できる時間と環境の工夫をしている。 	89.4	95.1
4	人・もの・こと つながる子の 育成	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を持ったり感動したり、遊びが継続・発展するような人・もの・事柄との出会いの場（実体験）を設けている。 ・聞いたり話したり伝えあったりする場面を大切に、コミュニケーション力の育成に繋げている。 ・友だちと相談したり共感したり協力したりする中で、他者を信頼する気持ちを育てている。 ・異年齢との関わりを大切にしている。 	90.9	94.8
5	気持ちの良い 生活をする子 の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・習慣化させたいこと（あいさつ・よく食べよく寝る・早寝早起き・運動・片付け等）を丁寧に指導している。 ・自分のことを自分でしようとする姿を保護者と一緒に認め、ほめることで自信につなげている。 ・落ち着いて過ごせる時間の保障や環境づくりをしている。 ・自分や相手の体や心を大切にする行動や活動を、年齢に応じた方法で知らせている。（避難訓練・防犯教室・性の指導等） 	95.4	95.1

6	自分が大好きな子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちに寄り添い、共感したり代弁したりすることを通して、子どもの安全基地になっている。 ・子どもの良さや頑張りや成長を認め伝えることで自己存在感・自己肯定感を育てている。 ・自分の良さが言え、自信が持てるよう励ましている。 	95.5	95.1
7	子ども理解と個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解に努めている。 ・子どもとの信頼関係をつくっている。 ・子ども一人ひとりの特性に配慮した教育保育を行っている。 	95.5	95.1
8	多様な交流	<ul style="list-style-type: none"> ・島二中生との交流活動やサツマイモ栽培、高齢者施設、警察署、消防署、お買い物（駄菓子屋さん）など地域の様々な人との交流の場を多く設け、人とのふれあいを大切にしている。 	81.8	96.5
9	食育	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全で栄養バランスのとれた食事を提供し、子どもにとって楽しい食事時間になるように配慮している。 ・食に関する指導や活動が、年齢に応じて適切に進められている。 	90.9	96.5
10	保護者とともに	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや園・クラスだより・シール帳・あゆみノートなどで、子どもの活動や成長、子育て情報などを伝えている。 ・子どもの声や保護者から寄せられた相談や意見要望に適切、丁寧に対応している。 	95.5	91.6
11	関係機関等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの特性を理解し、保護者とともに専門機関・専門家、教育委員会等と連携しながら、子供の成長の支援を進めようとしている。 ・小学校との円滑な接続を考え、幼小の職員の合同研修などをおして小学校との積極的連携を進めている。 	86.3	89.5
12	預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> ・1号認定の園児を対象とした預かり保育の日数や時間、料金、保育内容などを、こども園として適切に設定している。 	86.4	77.0
13	チーム Chuoh 学ぶ職員集団	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が和顔愛語の精神に従い、教育保育目標や教育方針を共有し、協力して教育保育にあたっている。 ・子ども理解や環境設定の仕方、子どもへの関わり方や教育保育の方法等を園内研修や園外研修で積極的に学んでいる。 	95.5	93.0
14	安全教育 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境・衛生面・感染症拡大防止などに気を配り、「保健だより」等で情報を伝えるなど、健康管理について力を入れている。 ・様々な状況を想定した避難訓練や安全点検を定期的に行うとともに、心肺蘇生法や乳幼児の病気等への対応について研修を行い、事故防止に努めている。 ・防犯教室・交通安全教室・性の指導等を行い、子どもの心身の安全教育及び安全管理に努めている。 	95.2	94.4

3 考察 二令和7年度の振り返りと令和8年度の教育保育について＝

- ・今年度は評価の項目を整理しました。昨年度と比べ内容が大きく変わったわけではありませんが、園がめざす子ども像についてより分かりやすく振り返りをしたいと考えたため、5つのめざす姿について項目を設け、その達成状況を評価するようにしました。
- ・全体的に保護者アンケートと職員自己評価の回答に大きな開きはありませんでした。子どもの姿や発言とともにお便りや、個別の対応などを通して、園の取り組みをご理解いただいたものと思います。ただ、保護者の皆様にとっては評価項目の変更に伴い、やや評価しにくかった部分があったかもしれません。そのような中、ご回答をありがとうございました。

項目	令和7年度の成果と課題及び 令和8年度に力を入れたいこと
教育保育について	<p>○教育保育目標・重点目標については今年も職員・保護者ともに97%台という高い評価でした。</p>
5つのめざす姿	<p>重点目標に「じぶんからみつけ、かんがえ、やってみよう」を設定し“5つのめざす姿”について子どもたちの姿を振り返ったとき、自己評価では9割が高評価をしています。それぞれの職員が日々意識をして取り組んできた結果だと思えます。しかし、今年度特に意識をして取り組んできた主体性、自己コントロールや自己制御の力、言葉やコミュニケーションの力、この3点については新たな課題が生まれ、さらに考えていく必要を痛感しました。</p>
(主体性)	<p>主体性の育成について</p> <p>○日々の生活や遊びの中で主体的な姿をとらえ大切にしてきました。公開保育を行っての研修でも行事においても子どもの主体性を引き出そうと、やりたくなったり関心を持てるような環境の工夫や職員の関りを工夫したり、活動のどこに主体性がみられるのだろうかと話し合ったりして、実践につなげてきました。</p> <p>子どもたちには自由に遊びを見つけ、友達と誘い合っただけのびのびと遊ぶ姿が見られました。しかしその反面、主体性とは何か、どこまでをいうのか、個々の主体性と自由・自分勝手・わがままとの境界線はどこか、また、自己コントロールと主体性との関係性はどうあるのか、といった疑問や迷いが出てきました。また、主体性を大切にしたら割にはのびのび遊ぶが遊びが続かない・発展しないなど、これまで見られた仲間と盛り上がり夢中になるダイナミックな遊びが減ってきているのではないかと感じられるようになりました。</p> <p>次年度は重点目標を変えて、主体性及び自己コントロールやコミュニケーションの力等を総合的に育てていきたいと考えています。</p>
(人・もの・こととつながる子) (自分が大好きな子)	<p>○5つの姿についてはどれもおおむね90%から100%と良い評価となっています。しかし細かく見ていくと少しばらつきがみられます。たとえば(4/人・モノ・こととつながる子の育成)の4番目異年齢とのかかわりを大切にしているは72%とすこし下がっています。気持ちにも時間にもゆとりがなかったという振り返りがありました。(6/自分が大好きな子の育成)の3番目自分の良さが言え、自信が持てるようはげましているも81%です。決して低くはないのですが、自信が持てるような寄り添いは実際にはどうしたらよいのかまよったという振り返りもありました。</p> <p>次年度は子どもの学びの基本である遊びを見直し、子どもも職員も自信をもってダイナミックに遊び込めるよう、またそれを子供にメタ認知させ自信を持たせるような職員の関りを大切にしていきたいと考えています。</p>
(人・もの・こととつながる子)	<p>○行事については子どもが主体的に取り組むために一つ一つ見直してきました。“やりたい・やってみたい”を引き出す環境を工夫しました。外部の方の力を借りた時計屋さん・お買い物(中溝さんち)、保護者の方の力を借りた年長おたのしみ保育、方法そのものを換えようとした秋祭りウィークなどの試みをしました。実際には感染症の流行で実施できなかったものもありますが、目指す姿を念頭に計画を実施してきました。身を乗り出して大人の姿に夢中になる子や仲間と頭を摺り寄せて地図をのぞき込み互いに意見を言い合う姿、本物のお金に少しの緊張感とワクワクする期待感をもって大人と真剣にやりとりをする中で社会の仕組みを体験する様子からは、子どもたちがその“こと”に主体的にかかわり、気持ちや言葉をやりとりしながら学び取ったものの大きさを感じました。</p>
(行事)	<p>○昨年の反省で気候変動などにより時期を動かした運動会や発表会などについては、個々にも集団としても大きな育ちが見られました。しかし、時期を動かしたことにより本来育ちが充実してきたその時期に味合わせたいダイナミックな集団の遊び込みなどに十分な取り組みができず、子どもが育つ時期・タイミングがあることを改めて考えるきっかけとなりました。来年度は天候に左右されない会場での運動会などを模索しています。</p>

子ども理解	<p>○その子を知り理解し信頼関係を築き、個に応じた関りを模索し実施してきました。本年度は行政などの専門機関（子育て応援課など）医療等々、様々な方向からアプローチしてきました。クラスの担任のみで対応するのではなく職員みんなで情報や方法を共有し対応してきました。</p>
多様な交流	<p>○行事で取り上げたお買い物（なかみそさんち）や日々の散歩、介護センター青空さんとの交流など、多様な交流も大切にしてきました。</p> <p>毎年、島田第二中学の生徒が家庭科体験学習として年中児と一緒に遊びます。園児も中学生も双方に良い経験となり、その嬉しさを家庭で話す子どもも多くいます。今年度は“お兄さんお姉さんにお礼をしたい”という子どもの思いから中学校へお礼の手紙を持って行くことになりました。実際にはインフルエンザの流行を受けて出かけていくことは実現しませんでした。手紙の交換だけは行い、子どもたちはひとつのつながりを感じました。</p> <p>年長児が初めて行った警察署の見学では本物を見聞きすることの威力を改めて感じることでとなりました。見学の初めはあまり関心のなかった子どもたちが終了の際には警察官の「大きくなったら警察官になりたい人？」の問いにほとんどの子が手を挙げました。大人へのあこがれ、そして社会に守られて生活していることなどを感じる交流となりました。</p> <p>園の教育保育は園の中だけで終わらせず地域の方や様々な方とのつながりが必要で、そこで育つ力は大きなものだと考えます。今後さらに力を入れ、社会の力、ボランティアなどの協力をお願いしていきたいと考えています。</p>
関係機関等との連携 (小学校)	<p>○関係機関との連携について、今年は89%と保護者の方の理解度も上がってきています。</p> <p>小学校との連携はかけはしプログラムを意識しながら実践発表をしたり、園内研修でも外部講師に小・中学校の教員経験のある人を招いて学びあいをしたりしました。また、子ども同士のかかわりとして3月9日には第四小学校へ出かけて交流会をしました。</p> <p>こうした様子をお便り、HPなどで 伝えたことも保護者の理解を得る一助となりました。今後小学校の教員を園に招いて保護者に話をしてもらったり、小学校の子どもとかかわったりする計画を検討し、職員も授業見学などの学びの機会を作ったりして、小学校教育を理解し、子どもの育ちや、学びが小学校に滑らかにつながるようにしたいと考えています。</p>
健康安全について	<p>○安全教育として毎月の避難訓練に加え、アプトレ（危ない時のトレーニング）や性の話を取り入れてきました。また危機管理の一環として、門のカギについてはお手数をおかけすることになりましたが、どの子どもより安全に過ごすために、今できる方法として4点目のカギを付けました。</p> <p>○秋から冬にかけては感染症の流行があり、学級閉鎖を余儀なくすることとなりました。就労している保護者の方々にとっては大変なご迷惑やご心配をかけたのですが、園医や関係機関とも相談をし、子どもの健康を考えた上での最善の方法ということで実施しました。保護者には必要であれば学級閉鎖の証明書を発行したり、預かりの日を増やしたりして対応しました。ご協力ありがとうございました。</p>
預かり保育	<p>○預かり保育については保護者の評価が77%台と少し低めでした。働く保護者が増え、新2号という保育園型に近い保護者が増えている中で、預かり保育の日数を増やしてほしいという声は後を絶ちません。また働いてない1号認定児保護者の中にも子育てに困り感を感じていらっしゃる方もいるように思われます。そうした中、園としても預かり保育についての検討を重ねています。とは言え、現況の職員でやりくりする中で安全で安定した預かり保育は大変であることは確かです。今後、更に検討が必要と思っております。</p>

その他	<p>○保護者への発信は90%で、こちらもおおむね満足していただけていると感じておりますが、中にはさらに知りたいもっと知りたいというご意見もありました。今後は、さらに理解が深まるように参観後の懇談会を設けるなどして伝えていきたいと考えています。ただ、すべてを知って大人も子どももかえって苦しくなったり窮屈になったりする場合も考えられます。子供から聞く楽しみも感じられるような発信を心がけていきたいと思えます。</p> <p>○子育て支援として未就園対象の活動をしていますが、満3歳児2歳児の参加は減り、0・1歳児の参加がぐっと増えました。また、市の待機児童は解消しつつありますが、3号認定児（0・1・2歳児）の入園希望者は増え、低年齢化しています。本園としても受け入れ態勢を検討し、来年度から再来年にかけて乳児クラスの増員をしていきます。</p> <p>○そのほか、県及び市の指導監査では特に大きな指摘はありませんでしたが、園の重要事項が誰でも見えるようにしておくこと、個人情報については細かな詳細まで示した書類で同意を求めるようにしたほうが良いという指導があり、早速4月から対応してまいります。</p>
-----	--